

令和2年度 社会教育委員会（第2回）議事要旨

◇日 時

令和2年7月28日(火) 午後7時～9時5分

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室1

◇出席者

【委員】鈴木委員、大西委員、松本委員、大島副委員長、小林委員、大庭委員、土屋（浩）委員、土屋（八）委員長、横山委員、高橋委員、小田委員

【事務局】大塚生涯学習課長、高橋係長

【オブザーバー】勝又主査

◇会議次第

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 委員及び職員紹介（自己紹介）
4. 報告事項
 - ・各種委員会の会議報告
5. 協議事項
 - ・裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて
 - (1) 裾野市の未来像について
 - (2) 前回のグループワークの結果について
6. そ の 他
 - ・市民活動の集い（実行委員の選出）について
 - ・令和3年成人式について（令和3年1月10日開催予定）
 - ・東部地区社会教育委員等研修会について（8/21）
 - ・静岡県社会教育委員連絡協議会個人負担会費について
 - ・次回の開催について
7. 閉 会

◇審議経過

主な内容は次のとおり（○は委員の発言）

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

都市部で新型コロナウイルス感染者が増えたり、梅雨の大雨で須山地区では避難勧告が出たりと、いつもとは違った日常になっています。須山で避難勧告が出た際にも、誰も避難した方はいなかったようですが、自分ごとになっていないように感じました。こんな時こそ、地域コミュニティが重要になってくると感じます。

3. 委員及び職員紹介（自己紹介）

席順に自己紹介

4. 報告事項

- ・各種委員会の会議報告
特になし

5. 協議事項

- ・裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて
 - (1) 裾野市の未来像について
別紙のとおり
 - (2) 前回のグループワークの結果について
別紙のとおり

6. そ の 他

- ・市民活動の集い（実行委員の選出）について
市民活動の集いの詳細について話し合いをしていただく。
実行委員：土屋（八）委員長、大島副委員長、松本委員、小田委員
- ・令和3年成人式について（令和3年1月10日開催予定）
開催予定でいるが、新型コロナウイルス感染症のことを考え、例年どおりに開催するのは難しいと考えている。どのような開催方法がふさわしいか、広く皆さんからもご意見を伺いたいので、ご意見がある方は生涯学習課までご連絡いただきたい。
- ・東部地区社会教育委員等研修会について（8/21）
8月21日に裾野市の生涯学習センターで開催されます。提出は今日までです。
- ・静岡県社会教育委員連絡協議会個人負担会費について
今日までをお願いします。

次回開催日： 9月17日（木） 19：00～ 生涯学習センター 学習室2

7. 閉 会 大島副委員長

裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて

(1) 裾野市の未来像について

- 「裾野市の未来につながる・・・」というテーマなので、市の方向性を
知っておく必要があるのではないかな。
- 市がどういう方向に進んでいくのか、知っておくべきではないか。
- 市の未来像を実現するために、「地域コーディネーター」がどう関わ
れるのか。
- 行政が動きたくくなるような提言をしなくては。
- 市の方向性と提言書の方向性が一緒になっていないと、せつかくの提
言書がもったいない。
- 裾野市の未来像を全員で確認をしていく。

【裾野市の未来像】

- 地域の活性化
 - ・子どもの時から地域への愛着を育む
- 多様な人間関係の充実
- 地域コミュニティの維持
- 未来技術
- 地域の担い手の確保
- 出来る範囲内で行う
- 自分の地域はどうなのか
 - ・行事を通しての地域づくりをしている地域もある
- 各種会等と連携
 - ・支所（コミセン）がある地域は、支所を中心に
 - ・区長会
 - ・スクールコーディネーター
 - ・学校 等
- 学生（主に高校生）をまき込んだ地域づくり
- 団体での交流による地域づくり（子ども会、青团連等）

【地域コーディネーターの必要性】

- 総合計画を根拠に必要性を説いていく
- 地域コーディネーターを中心に、団体・組織を繋げていく
 - ・つながる場、交流する場、活動する場が必要
 - ・子どもの頃から地域と関わっていくことにより、地域の良さを体感

(2) 前回のグループワークの結果について

【地域コーディネーター設置しよう】

- ▼行政とのかかわり
- 社会教育として「何をやりたいのか」をはっきりさせ、行政に伝える（目
的をさせる）
- 市のバックアップが必要だが、どのようにバックアップしてもらおうか
- 人材確保をするため、養成講座を実施
- ①市主催で講座を開催
 - ②受講者が、地域への還元のための講座内容を活かした講座を開く（実

践の場)

- 受講者が活動する場所を自然発生的に待つのではなく、行政がしむける。仕組みをつくる。
- 嶽南ふるさとのような団体の自然発生は難しいと考える。また、理念のある既存団体では、「この事項についても」は難しい。そう考えると、卵から育てていかないとダメではないか。
- 養成講座から人のつながりをつくり、実践していく流れ。
- 「未来につながる・・・」というテーマなので、若い人たちをまき込むことが大切。
- コミュニティ・スクールを良い形にしていくのがいいんではないか。
- コミュニティ・スクールとのかかわりが大切になってくる。
 - ・「地域が学校を支援する」から「地域の中の学校」へ。地域で子どもを育てていく。
- 地域の中で子どもを教育するスタンス。学校をうまく地域に馴染ませる。そこをリードし、活動を活発にするには、「地域コーディネーター」が必要である。
- 地域コーディネーターの活動の場として、コミュニティ・スクールを活用するのがいいと思う。
- 人と人のつながり（大人から子どもまで）は、地域で学ぶ。子どもは地域で育てる。
- 地域で「こうなってほしい」という子ども像を、学校と一緒に育てる。
- 地域に根付く子どもを育てる。
- 学校という場を使って、地域づくりをする。
- 地域の間人間関係がより深まっていく地域にしていくことが目標。それを手助けするのが、「地域コーディネーター」となるんでは。
- この「地域コーディネーター」が発言権を持つには、お墨付きが必要である。
- 地域コーディネーターの身分保障が必要。行政からの任命。市でバックアップしてもらおう。
- 地域づくりを仕事としてできる人を育成することも考えられるのではないか。例えば、「地域おこし協力隊」など。
 - ・地域おこし協力隊の person 費や活動費などが補助金として出る。国が10/10 出してくれる。3年間、補助金を使って雇うことができる。
- 結果を出すために地域の人ではなく、外（外部）から入ってくるわけだが、必要性をわかってもらうにはいい機会なのではないか。
- 「地域にこういう人が必要だ」という大きな成果になるのではないか。
- 地域おこし協力隊として来た人たちが、裾野に根付いてもらえる環境づくりも大切である。たとえ帰ってしまったとしても、きっかけづくりにはなるのではないか。
- 地域おこし協力隊を活用するにしても、どういう目的で活動してもらおうのか等のビジョンが大切になってくる。
- 何をやりたいのか？ターゲットは誰にするのか、など。
- 地域おこし協力隊と一緒に活動する中で、「地域コーディネーター」を養成することに活用できないか。
- 地域おこし協力隊がどんな活動をしているか学びたい。
- 他地域の活動からも学べることがあるのではないか。

○次回は、「地域おこし協力隊」と「コミュニティ・スクール」を学ぶ機会としたい。